

剣道あまくさ

第 2 号

発行所
〒863-0033 天草市東町3
天草市総合武道館
天草剣道連盟

昨年亡くなられた天草剣道連盟名誉会長の榎木平八郎先生の追悼文を前天草群市剣道連盟会長の浦田政八先生よりいただきました。

榎木平八郎先生を偲ぶ

浦田政八

県警南署の剣道部長、熊本県剣道連盟相談役、熊本県高齢剣友会副会長。天草群市剣道連盟第四代会長、天武館館長、天草初の存命中の剣道範士号授与。会長を辞任された後は名誉会長として吾々会員の指導と天武館少年剣士の育成に努力していた



在りし日の榎木先生

二十九日大往生。享年九十二。葬儀は翌三十日午後一時より自宅で行われ、親族・知人・剣道連盟の会員の多くが参葬し、新生なった天草剣道連盟の花里昌直会長の弔辞があり、故人の広いお屋敷に溢れんばかりの弔問客で盛大な葬儀であった。

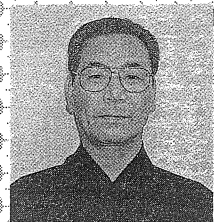
榎木平八郎先生と元会長の松田正忠先生とは旧制天草中学校(現天草高等学校)での後輩と先輩の間柄である(松田先生五年生時分に榎木先生二年生。私は、日本渡市の港町にあった天武館道場での稽古が終わったあとは、元天武館館長の堀田先生、松田先生のお話を聞くのが楽しみで、夜の十二時過ぎまで時間を忘れてお話を聞いていたこともあった。今にして思えばあの頃は剣道の修行はもとよりで

あるが社会勉強の修行が大であったと胸中秘かに思っている。榎木先生の若い頃のことであるが、生よりお聞きしたことでありますが、榎木先生が中学五年生の時、招魂祭の剣道大会で優勝され、初めて堀田先生から日本刀を授けられた話は当時有名であり、その後は誰もが日本刀を欲しがったそうだが、榎木先生に与えられたあとはその後誰にも授与されず、後輩達は大変残念がったそうである。

榎木先生と私との出会いは福岡である。先生は七段、私は六段の昇段を目標に約一年間先生の指導を受けた。先生は原動機付きの自転車、私は足踏みの普通の自転車です。茶北中学校の講堂に通ったが、先生に遅れないようにして行くのが苦しかったことを思い出す。講堂では二人だけの稽古であった。絵に描いたような先生の面打ちの指導を受けたが、爾来三十年会得できないでいる。然し稽古では良い技は発揮できないが、県民体育祭やネンリンピック(県代表として五回出場)その他の試合の時、無意識の中で先生より御

指導を受けた技が発揮されたことが数多くあり、只只感謝の念でいっぱいである。先生から御指導を受けた言葉が会員の皆さんにもお役に立てばと思い、書き留めて榎木平八郎先生追悼の言葉とします。

六段合格にあたって



海付公生

平成十九年五月、名古屋の審査会場で六段に合格しました。私は審査一週間前から緊張が強まり、何をしても審査のことが頭から離れず、心の重い日が続きました。

仕事から帰宅後、三キロ程走り、早めに風呂に入り、体を温め、首の持病を持っているため痛み止めの薬を飲み、マッサージ器に当たり、首を引っ張り、稽古に向かう。忙しい日々を過ごしました。稽古にはいつも益田先生、木下先生が待っていてくださいます。まず「畳二畳」の稽古から始まりました。なかなか地稽

榎木先生の教え
一、昇段審査を受けるときは使い慣れた竹刀を使い。未使用の新しい竹刀では虫食い等で折れる可能性があり、不心得者と思なされる恐れがある。
二、稽古でも試合でも相手の同

じ技に二度と打たれぬ工夫をせよ。
三、稽古では苦しくとも相手より数多く打つよう努力せよ。
四、稽古では相手を打たれても遅れてでも相手を打つよう研究せよ。

古の中で真つ直ぐな動きの攻撃ができず苦労しましたが、益田先生の御指導の下、なんとかできるようになり、それから躊躇の仕方、躊躇の足の動き、ひかがみの張り方、両足の重心のかけ方など、稽古内容は変わっていききました。一番分からなかったことは、六段審査の課題の「溜め」です。この面打ちには二年間続けましたが、なかなかできず、「相手の動きの色を見て打て」と言葉をいただき、難しいながらも自分を見つめて稽古を続けました。また、木下先生からは「牙えのある打ちを」とご指導をいただきましたが、これもなかなかできることでもなく、最終的には残心の取り方で終わりました。まだ課題をクリアでき

合格の報告を審査会場から木下先生、益田先生、そして妻に電話をかけました。今までの色々なことが思い出されて涙が溢れ、言葉にはなりません。これまで私に真剣に剣道をご指導くださった全ての先生、先輩の皆さん本当に有難うございました。今回、「感謝」という言葉を改めて噛み締めました。これからもまた宜しくお願い致します。今後も日々精進するなかで子ども達の目標になる指導者でありたいと思っております。

「牙えのある打ちを」とご指導をいただきましたが、これもなかなかできることでもなく、最終的には残心の取り方で終わりました。まだ課題をクリアでき

合格の報告を審査会場から木下先生、益田先生、そして妻に電話をかけました。今までの色々なことが思い出されて涙が溢れ、言葉にはなりません。これまで私に真剣に剣道をご指導くださった全ての先生、先輩の皆さん本当に有難うございました。今回、「感謝」という言葉を改めて噛み締めました。これからもまた宜しくお願い致します。今後も日々精進するなかで子ども達の目標になる指導者でありたいと思っております。

運・鈍・根